



共同代表: 島042-332-2647 深澤042-341-7524 e-mail: kodaira_kankyo@jcom.zaq.ne.jp

このままでいいのか？ 小平市のごみ

☆ ごみ量は多摩で13位、資源化率は25位

2月19日、市のごみ減量対策課と面談した。面談を申し入れたわけは、ごみ・環境ビジョン21の情報紙(隔月刊)「ごみっと・SUN」(2015年1月26日発行)に出ていた「東京多摩地域30自治体の『ごみ焼却・埋立』を比較する」(2013年度)だった。小平市の総ごみ量は51,898トン、1人1日当たり総ごみ量は763.3g/人日で多摩30自治体中、少ない方から13位とあった。総資源化量は12,911トン、総資源化率は24.9%で28位とあり、これはショックであった。小平市のあとは稲城市と日の出町しかない。かつて、1998年頃、市役所の正面に「ありがとう ごみ減量多摩第1位」と垂れ幕が下がっているのを誇らしく眺めたことが有るのだが…。

(註) 小平市清掃事業概要によれば、2013年度の総資源化量は13,424トン、総資源化率は25.9%となっている。この場合は30自治体中25位になる。

これに対する市の答えは「資源化率には重きを置いていない。着実にごみ減量を進める方向でとりくんでいる」というものであった。

☆ ごみ減量にはごみの「見える化」が有効

2月19日、ごみ・環境ビジョン21の市民ごみ大学セミナー「『見える化』によるごみ減量～ゼロウェイストをめざして～」があった。講師の山谷修作さん(東洋大教授)はゴミ問題の背後には「見えない化」があり、それがごみ減量の取組みを阻害していると言い、ごみ減量の手法としてごみの「見える化」を提唱している。

「見える化」には(1)透明な指定袋に入れて出す、戸別収集にする、などのごみ自体の「見える化」と(2)ごみ情報の「見える化」があり、その中味として、(イ)発生抑制や生ごみ自家処理の大切さ、(ロ)ごみ量やリサイクル率などの自治体比較情報、(ハ)自分が出すごみ処理費や負担の公平性→有料化、が挙げられた。(ロ)については、県内の市町村、同規模の市町村など一定のグループの団体間で1人1日当たりごみ量、リサイクル率などの成果指標を比較し、住民に比較情報を公開することにより、市町村のごみ減量・資源化推進への取組みを強化する(ヤードスティック競争)としている。

この説明を聞いて、まことに我が意を得たりと勇気づけられた次第。こういう比較情報を積極的に市民に公開し、今後の目標値を設定してその達成に向けて市民の行動を促がす、そうした取組みが必要ではないかと考えている。私案だが、総資源化率30%を達成目標にするというのはどうであろうか？これは多摩30自治体の平均値で

目次

このままでいいのか？小平市のごみ・・・1～3
都・環境講座「都内の大気汚染の現状とPM2.5の健康への影響」報告・・・4
農の会60周年 定例研究会・・・5
福島 飯館村を訪ねて・・・6
小平市住民投票情報公開裁判～最高裁へ上告～・・・7
コラム本の紹介「プラスチックの海」・・・8

あり、小平市ごみ処理基本計画の目標値でもある。

☆ 有料化で10%以上の減量、リバウンドなし

山谷教授は「見える化」の具体的な手法の一つとして有料化を挙げる。有料化は減量、リサイクル推進の誘因になり、負担の公平性が確保でき、ごみ問題、きちんと分別することへの関心が高まるなどの意義があるとしている。実際、多摩地域では30市町村中25市町で有料化が実施されているが、有料化実施前と後（2013年度まで）では対象19市中15市が10%台の減量率を示し、20%台1市、30%台1市となっており、しかも17市ではリバウンドが起こっていないとのことであった。

多摩地域を一つの県とみなせば、1人1日当たりごみ排出量は全国トップの熊本県の845gより少ない791gであり、リサイクル率はトップの三重県の30.7%を上回る37.6%（エコセメントを含む）であるとの指摘は興味をひくものだった。

小平市の有料化実施の予定はまだ先のことであるが、有料化に関する論議は市民の間でなされてしかるべきではないだろうか。

☆ 「ごみ・資源の分別をきちんと」が出発点

では、小平市民として、当面ごみ減量についてやることはなんだろうか。私はごみ・資源の分別がきちんとされるように情報を周知させ分別を徹底させてごみ減量に結びつける取組みをとりあげたい。

2013年7月に発表された「小平市ごみ組成分析調査報告書」によれば、燃えるごみの中に混じっていた分別不適物は14.3%あり、燃えないごみの中の分別不適物は36.8%であった。燃えるごみの中に入っていた可燃性資源は11%で、その内訳は雑紙6.9%、雑誌・書籍1.0%、新聞紙0.6%、段ボール0.3%、古布・布団2.1%であった。燃えないごみの中の不燃性資源は24.9%あり、内訳は硬質プラスチック16.6%、ガラスびん4.8%などであった。たとえば、燃えるごみの中の紙類8.8%と燃えないごみの中の硬質プラスチックとガラスびんの合計21.4%とを合わせ、それぞれ重量に換算すると年間4,000トンになる。その3/4がきちんと分別され資源化されると資源化率は29.2%になる。

☆ ターゲットは雑紙、プラスチック容器、びん、生ごみ(食物資源)

では実現のためにどうするのか。ターゲットは、① 燃えるごみの中の雑紙です。これをごみに入れて別に別の袋に入れて可燃性資源の日に出す。隣の小金井市の中間処理場に新聞紙を使って雑紙袋を作って展示してありましたが、これは雑紙の資源化に役立つでしょう。② 燃えないごみの中の硬質プラスチックとガラスびん。これらを排出するとき、「ごみか、資源か」と自問自答しましょう。同時に、買ったお店で回収してくれる容器だったら、そのお店に返ししましょう。

仙台市では、以前、「ワケルくん」というキャラクターが作られていました。小平市でも各町にそれぞれ「ワケルくん」を置いて分別の徹底をはかったらどうでしょう。現在おられるクリーンメイトの人に活躍してもらってもいいでしょう。もっと多勢の人が市長からちゃんと委嘱され権限をもらって分別の指導をするように取組んでみたらどうでしょうか。

③ さらに燃えるごみの約4割を占める生ごみ（食物資源）があります。小平市ごみ減量推進実行委員会はEM菌バケツ方式やダンボールコンポスト方式で堆肥化講習会を開催して生ごみをごみにしない取組みをしています。市は2010年度から抗酸化バケツでの食物資源循環モデル事業を実施しています。

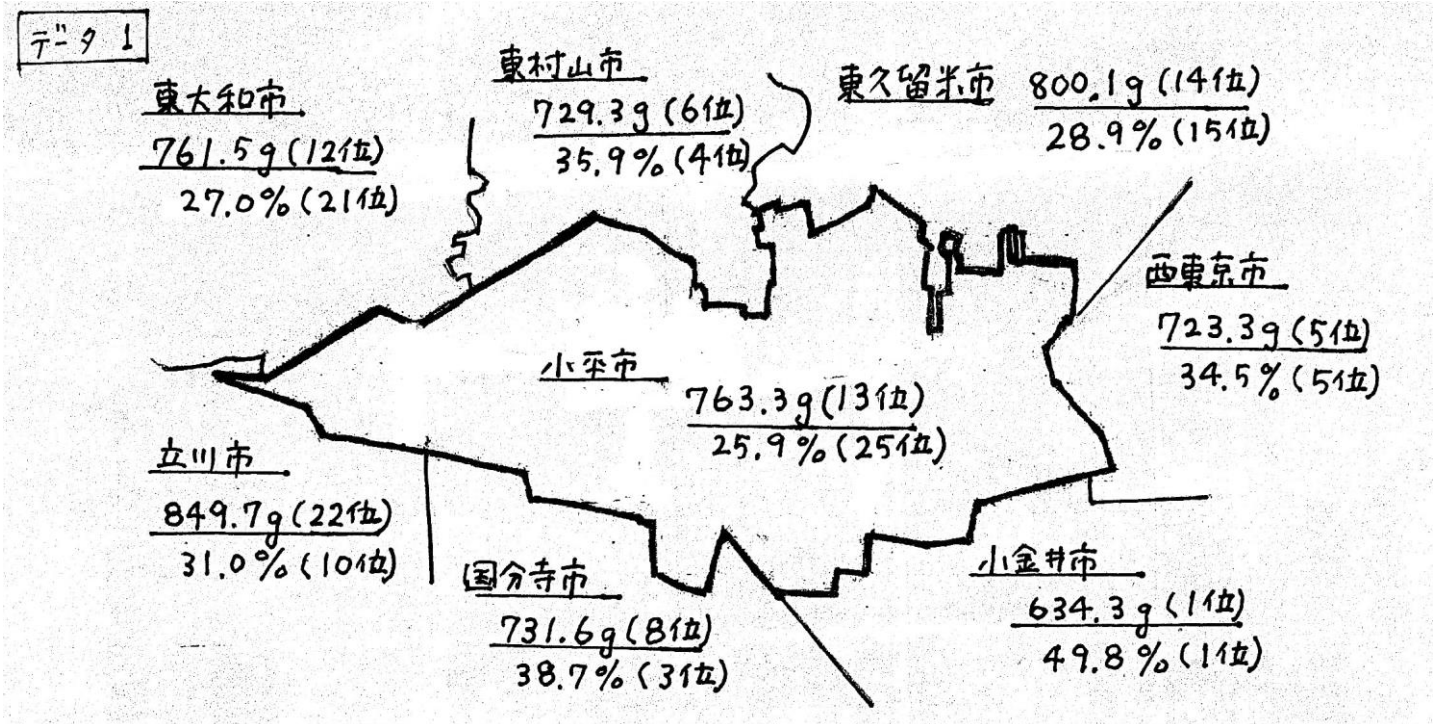
市民が分別してバケツにためた生ごみを週1回トラックで回収に来てくれます。市民に大した手間はかからず、燃えるごみが減り、回収ステーションでの生ごみの散乱、臭いも減ります。多摩地域でも他にあまり例のない小平市独自の取組みです。市は参加者を徐々にふやし、2016年度は1000世帯をめざしています。市民としても参加をふやし、成功させましょう。



ワケルくん

☆ 多摩で恥ずかしくない地位を占めたい小平市をとり囲む7市のうち5市は多摩の資源化率ベスト10に入っています。その中であって、小平市は6市の後塵を押しワースト10に甘んじているのは悔しくあ

りませんか？ぜひ、分別をきちんとして資源化率を上げ、ごみ減量をすすめましょう。



図：小平市と周辺市の総資源化率、1人1日当たりごみ量とそれらの多摩地域での順位（2013年度）
出所：東京市町村自治調査会「多摩地域ごみ実態調査」

こうしてみると、焼却施設がなく他市にごみ焼却を依頼している小金井市が資源化率でも1人1日当たりごみ量でも多摩でナンバー1です。ごみの減量をすすめるには焼却施設をなくするのがいいと云いたい誘惑にかられてしまいます。そう云えば、ゼロウェイストの目標は「焼却ゼロ」、「埋立ゼロ」なのです。
(高梨)

小平市もがんばっている！？～リサイクル品目、着実に増えています～

★昨年11月から出せるようになりました

- ・ビン・カンなど不燃性資源の日に：**スプレー缶・ガスカートリッジ缶**（中身を使い切り、他の缶と別の袋で。穴を開けなくてもOK）、**ライター**（使い切って別の袋で）、**金属製のナベ・やかん・フライパン**（アルミに加え、鉄・ステンレス・ホーローなど本体が金属製のもの、別の袋で）
- ・紙・布など可燃性資源の日に：**羽毛ふとん**（ひもで十文字に縛って）、**ぬいぐるみ・かばん・帽子・ネクタイ・ベルト**（再利用できそうな破損していないもの。除外品は市のHPで確認を）
- ・公共施設などの紙パック回収箱へ：内側がアルミコーティングされた**酒パック**など

★リサイクルきょうらばん（年4回ほど市内各所で実施）で

- ・**廃食油**（未使用可）、**未利用食品**（未開封で賞味期限が1ヶ月以上先のもの）も回収が始まります。
- ・小型家電（市役所等にも常設BOXあり）、陶磁器食器、おもちゃ、かばん等も従来通り回収。
次回は3月26日（木）13:30-15:30、小平市リサイクルセンター（小川東町5-19-10）
- ・ごみゼロフリマ（6月上旬）、エコフェス（9月上旬）などでは以前から、上記の多くを回収中。